

大谷學報

第十四卷 第一號

昭和八年一月發行

法華經に於ける『妙音』の語義について

泉 芳環（一）

一念多念文意の一考察

可西 大秀（二七）

親鸞聖人假名聖敎用語の研究（二） 藤谷 一海（三四）

——假名聖敎の假名遣に就て（承前）

支那佛教寺院の金融事業

道端 良秀（九一）

——無盡に就て

三寶繪詞中卷の説話について

雨宮 尙治（一三〇）

龍樹造・中論無畏疏（前續）

寺本 婉雅（一二五）

新刊紹介（一八）

研究室彙報（二八）

大谷大學

大谷學會

大谷學會々則

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ置ク。

第二條 本會ハ佛敎學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學敎職員、學生及ビ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス。

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。

一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

三、隨時圖書ヲ出版ス。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會長 一名

二、理事 二名

三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。

一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。

一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學學監ヲ以テ任ズ。

三、委員ハ會長ノ指名トシ、任期ハ二年トス。

第八條 會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

第十條 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。

附則

一、本會ハ佛敎研究會ヲ繼承ス。

二、本會ハ本學ニ於ケル佛敎學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

大谷學會役員

會長 上杉 文秀

理事 朽木 廣覺 重永 潛

庶務委員 阿部 現亮 雲村 賢淳

編纂委員 鈴木貞太郎 大須賀秀道 寺本 婉雅

鈴木 三七 可西 大秀 福井 元澄

南出 勇曉 雨宮 尙治 雲村 賢淳

會計委員 吉田嘉一郎

編輯後記

△本號は幸に印刷も捗つて、豫定通り一月中に讀者諸氏に御渡し出来ることを喜ばしく存じます。次號も遅刊せない様に念願してゐます。

△卷頭、泉教授の「法華經に於ける妙音の語義について」は前號に於て掲載すべきでしたが、編輯の都合上本號にまでおくれてしまひました。こゝに先生の御容赦を願ふておく次第です。

△次號には昨年の秋季公開講演會に於ける徳重淺吉教授の講演「明治初年に於ける東西兩本願寺の護法運動に就きて」を、先生は本誌の爲に特に稿を新にして御發表下される筈です。

△新春を迎ふるに當り、偏へに讀者諸氏の御健康を祈ります。(K)

大谷學報

行發回四年
月十・月七・月四・月一

會費 年額 金參圓(但前金送料共)
定價 普通號 金壹圓(送料六錢)
特輯號 隨宜申シ受ク(送料六錢)

廣告料

普通頁	一頁	半頁
表紙裏	貳拾圓	拾貳圓
參拾圓	拾七圓	

昭和八年一月二十日印刷
昭和八年一月二十五日發行

(第十四卷・第一號)

不許複製轉載

編輯者 大谷學會
右代表者 重永 潛

印刷者 須磨 勘兵衛

印刷所 大谷大學出版部

京都市北小路新町南入
京都市烏丸頭大谷大學内

發行所 京都市烏丸頭
大谷大學内 大谷學會庶務部

電話西陣一六四〇番
振替大阪六七一八五番